

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1196501298		
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイさいたま見沼グループホーム		
所在地	さいたま市見沼区南中丸948番地		
自己評価作成日	令和 6 年 2 月 9 日	評価結果市町村受理日	令和 6 年 3 月 29 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階
訪問調査日	令和 6 年 2 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①介護施設では大変珍しく、ご入浴の時間は、全て午後からにしている。                  ②夜勤はオールショート夜勤にしている。夜8時45分から翌朝7時45分の10時間実働                  ①②を組み合わせることで、午前にお風呂が無いので、慌てて起床する必要がない。                  また、遅番の職員が夜9時までいるので、利用者様のペースでゆっくり就寝することが出来る。                  夜勤者は、日中帯の仕事が終わっているため、フロアの消毒や備品整理など、昼間に中々出来ないことに着手できる。                  ③障害者雇用をしており、掃除に着手して頂いており、日々の掃除が漏れなく行われている。</p>
---

<p>管理者は、利用者、家族の思いを大事にした事業所作りを目指している。これまでの生活を大事に考え継続できるように支援している。絵手紙を作成し家族や友人に郵送している人やお好みの野菜ジュースや栄養剤の愛飲を継続している人、好きな米菓をおやつにしている人がいる。食事提供時、のりや漬物等個別に提供対応している。行きつけの美容院に通ったり、かかりつけの歯科医院に通院したり、お好きな飲食店に行くなど外出を楽しんでいる。利用者の思いを叶えるようにと、ノンアルコールビールの提供もしている。本部と共に職員研修に力を入れている。事業所単位の研修に加え、階層別研修や動画配信による研修が多くある。各居室には、コールボタンと見守りセンサーを設置し、フロアにも見守りカメラを設置している。ハード面からも安全に配慮している事業所である。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解や応援が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の玄関に理念を掲げ、事業所に入出入りする全ての方がご覧になれるようにしている。 ・面接やご入居見学の方が来た時は、理念を手差しして説明をしている。	法人理念に加え事業所理念がある。玄関に掲示し常に意識している。事業所の理念は、柱と考え立ち返っている。あきらめないケアを目指して、これまでの生活が継続できるよう支援している。	開設当時理念を作成したが、管理者や職員の多くは交代した。現職員と議論を重ね、現状に合わせて理念の変更等の検討を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員さん、町会長様には、運営推進会議にお誘いし、情報を頂きながら地域との繋がりを作っている。	散歩中で挨拶を交わしている。除雪を近隣住民とともにこなった。コロナ禍での開設にて事業所を積極的に周知活動できなかった。地域包括支援センターや民生委員との連携により事業所内の地域交流室活用を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自施設では、地域交流室があり、認知症の方のご相談なども出来ることを、民生委員さんを通じて周知している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2024年1月に対面式の運営推進会議を実施し5名のご家族様が参加され自己紹介の場面では、利用者様が涙ながらに感謝の言葉を耳にし、感動する場面があった。	今年度当初は書面会議で活動報告、入居状況等を記載し行政や地域包括支援センター、家族に郵送していた。1月には、対面にて利用者、家族5名、本部職員等含め開催した。出欠届けには、意見欄を設けて意見を求めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	郵便や電話で済むことも、積極的に役所に足を運び、馴染みの関係を作り協力関係を築いていく	報告書や申請、相談等で役所に出向いている。本部と分担して関係部署と連携している。市役所主催の研修や集団指導に参加している。地域包括支援センターには、運営推進会議への出席を働きかけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束では指針を示し、身体拘束に関する禁止事項が職員に閲覧できるようになっている。 また、2ヶ月に1回身体拘束・虐待防止の研修を取り入れ入れている。	2か月毎に研修を実施しており、資料は、管理者が作成したり本部から送られてくることもある。動画配信にて職員全員向けの視聴研修もしている。職員間での声掛けやアイコンタクトで拘束しない支援をしている。ペット柵の使用法、服薬方法等具体的な対応を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2ヶ月に1回研修を取り入れ、欠席者には書面や動画で閲覧して頂き、不適切ケアが起こらないようにしている。 運営推進会議でも研修を行いました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では、成年後見人を付ける方はおりませんが、過去に家族の方も居なく、後見人さんもついて居なく困難な事も起きたので、入所前に確認・相談をさせて頂くようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご見学時にもお話ししており、契約時は、確認しながら、質疑には具体的なお話しをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会や外食などに出られる機会も増えてきました ・来所の時には、ご意見ご要望などを確認しています。 ・運営推進会議で、ご意見を頂いています。	面会や電話連絡時に意見を聴いている。本部直通の相談ダイヤがある。情報端末器を使用したシステムで意見や要望を共有している。トイレの場所をわかりやすくとの要望に、ピクトグラムの横出し看板を設置した。	コロナ禍で面会制限により、家族とじっくりむきあい対話し意見を吸収することに限界があった。今後は、家族との関係をさらに緊密にして意見等の吸収、実現に期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人員が少なく、全員が集まったのミーティング開催が難しくなっています。 困りごとや、職員の意見を確認する方法として、個別ペーパー配信をして、率直の意見を聴くようにしています。	会議やミーティング等で意見を聴いている。欠席者には、書面にて収集している。年2回個別面談や本部にて職員アンケートを実施している。ホームページの内容やイベントの企画、備品購入等意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社が第三者機関に委託してアンケート調査などを行い、気持ちが確認できるシステムを作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社のシステムで、パソコン又はスマートフォンで学べる盛りだくさんの研修制度を取り入れている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社主催し外部講師の研修にオンライン形式で参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントシートを作り、計画書に反映させている。アセスメントには、本人並びにご家族様からの意見に耳を傾けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に築くご家族様との信頼関係については、ご自宅へ訪問させて頂き、生活環境も目視しながら、ご家族様の意見に耳を傾けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な聞き取りを行った上で、施設で出来るサービスをお伝えし、可能な限りで出来るサービスを提案し、必要に応じて支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来ることや出来ないことを共有し、掃除や洗濯など、日々の暮らしで、出来ることはして頂き、生活リハビリを行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	長い間、コロナで時間に制限も有ったが、ご家族との時間も作り共に利用者様を支える環境を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・知人や、友人などご本人がこれまで大事にされた方々には、制限を設けず、面会できるようにしている。	家族や知人の面会がある。年賀状のやり取りや電話の取次ぎをしている。行きつけの美容室でのセットや家族との外食を嬉しそうに報告くださる人もいる。栄養剤や野菜ジュースの愛飲を継続している人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクやお散歩・体操にお誘いし、利用者様同士が交流できる場所作りを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ツクイの発行する季刊誌等が発行された際は、退居されたご家族様にも冊子を送付している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その日の体調や思いに寄り添っている。着たいもの、飲みたいものなど、自己決定をして頂いている。	生活歴や家族情報、普段の会話から把握している。事業所での過ごし方を把握し、針仕事や飲酒(ノンアルコール)を継続支援している。表現の難しい人には、表情や動作から把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に沢山の情報を頂いておりますが、実際に生活され、疑問に思った事は、施設側の思いで決めごとせず、生活習慣も含めてご家族様に確認しながら寄り添いをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月に1回のカンファレンスを行い、出席できない方からも事前提出でお客様の情報を頂くようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週に1回の訪問診療、月に2回の往診医等、両側面から利用者様と接し、異変を感じる際は、医師や家族様と共有し、介護計画書に介している。	3か月毎に見直している。毎月のカンファレンスで状況を確認している。不在者には、事前にシートの記入をしてもらっている。家事を手伝うなどの役割を計画に取り入れている。計画は、職員全員端末器で常時確認できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットでケアプランを反映させ、行った記録反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居時には、ご本人様にしたことを確認し、出来る限り対応しております。共同生活の中で、したい事や、ご本人の思いが変わった場合は、寄り添いの中で、今の思いを確認し職員間で共有しケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩にお誘いし、季節感を肌で感じながら解放感に振れて、地域の方にご挨拶しながら地域に溶け込んで頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に二回の定期往診を受けて頂いている。医師の診察以外で外来が必要な場合は、ご家族様・医師・施設で共有しながら受診を行っている。	かかりつけ医と提携医の選択は可能である。かかりつけ医の受診は家族対応であるが、情報提供をしている。提携の内科医による、月2回の訪問がある。看護師が在籍しており医師との連携役となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回仕舞い看護師が来ている。古くからの情報も把握しており、新しい情報はタブレットで共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入院時は、治療計画をお聞きし、必要な治療ならびに医療行為が終了した段階で、早期に退院できるように、受け入れ態勢を整え、ワーカーと協議している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の指針を説明し、そのような時期に入った場合、今後について、施設・医師・ご家族様と3者で話し合いをし、ご要望に合わせた計画書を作成し、地域の訪問看護に入って頂き、終末期を支援しております。	契約時、指針に基き意向や延命処置について確認している。意向変化にも柔軟に対応している。看取りの研修もしている。これまでも看取り経験があり、今後も条件が整えば行う予定である。看取り後振り返りや職員ケアをおこなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は、看護師・医師・管理者と一体的になって動き、管理者は家族様との窓口役になり、看護師は医療側への窓口となって対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時は、民生委員さんと連携し、地域の協力を頂ける体制を作っている。避難訓練は、年2回となっており、2月、3月に職員を分けて内容を変えて、職員間でも共有して惨事に備えて頂く。	定期的に避難訓練をしている。消火器、通報訓練等もおこない、災害時のエレベーターについて検討している。避難場所である小学校へは、散歩コースとして熟知している。備蓄は3日分用意され、法人内近隣事業所と協力体制がとられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・慣れ親しんだ関係になっても、言葉遣いや対応には、敬意を持って対応するようにしている。 ・会社には、接遇マナーの研修も毎月行っており、受講して頂いております。	定期的に研修をおこなっている。パソコンや端末機は、IDパスワード管理、個人情報ファイルは、鍵付き書架に収納している。ミーティングは、部屋番号等を用いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定は大切な事なので、ご自分の思いを口に出せるような環境づくりを心掛けています。 自発的な言葉が出やすい声かけを行っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴を午後にすることで、利用者様が慌てず伸び伸び生活が出来ます。また、遅番と夜勤の入れ替わりが夜の9時にしており、慌てず自分のペースで生活できます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水や、お化粧品になど、ご本人のこだわりにも耳を傾け、ご本人のご要望を叶えながら、したいことはして頂き、喜びが感じられる対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・時に食のイベントで、利用者様参加型で、コロッケ作りや、うどん作りなど行っている。リクエストに応え、ノンアルコールビールなども提供する。 ・食器拭きなど出る事は手伝って頂いている	リクエストにより、ラーメンやパン食にしたこともある。粉から捏ね、足で踏んでのうどん作りや皮から作る餃子は、好評であった。駐車場にてドリンクバーを開催した。管理栄養士によるデザートの日がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の記録を職員間で共有している。 栄養状態などは、管理栄養士も入り確認して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施して頂き、必要に応じて職員の確認や介入をしている。適宜、訪問歯科対応頂き、健康状態を加療・確認・助言を頂いてケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	タブレットで個々の排泄パターンを管理し、定時誘導もやっている。トイレでは、声を掛けながら羞恥心に配慮して、パットの確認もさせて頂いております。	情報端末を使用しており、パターンを把握し時間で誘導している。こうした結果、パッドやリハビリパンツの使用量削減や布パンツへの改善があった。夜間はおむつやポータブルトイレ使用の人もいる。見守りセンサーを設置しており都度職員が対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトを用いている。また、日々の生活の中で座ったきりにならない様に、歩行や運動など身体を動かす時間を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴は前日に声かけをして、入浴が可能か利用者様の意思確認をし、当日も同意を頂いて、入浴の時間も決めて頂いております。 ・入浴は午後からなので、慌てずマッタリとした時間の中で利用者様のペースでご入浴できます。	週2回の入浴である。午後からの入浴にてのんびりと過ごせる。事前に知らせることにより、準備を行う利用者もいる。普通浴と機械浴があり、手すりも可動式で安全に配慮している。入浴後の薬塗布には、看護師から身体図を用いた詳細な指示書があり対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間は決めず、利用者様のその日のご様子で柔軟に対応しております。 眠気の強い場合には、休息の時間を取り入れたり、早めの就寝対応も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師又は管理者が主体的になり管理しております。薬の内容や使用目的は、変更が生じた場合は理由を添えてタブレットへ配信し共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今したことに耳を傾け、出来ることは対応し、喜びに繋がるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は利用者様のタイミングに合わせて支援しています。外食なども、ご家族様が対応され外出されています。	天気の良い日には散歩に出かけている。近くのデイサービスで交流することもある。梅や柿、柚子など見ながらのコースはお気に入りである。難しい人は、駐車場にて外気浴をおこなっている。青空体操や歌を歌ったりしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナで外に出かけ、買い物する機会が無かったので、ご本人の日用品の買い物が有る場合は、一緒にお連れしてレジに並んで頂くなど行いたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のパネルが押せない為、ご本人様の目の前でダイヤルし、ご本人様に受話器を持って会話して頂いています。手紙は現在は年賀状くらいとなっております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南向きのリビングは、広く明るい。エアコンや空気清浄機も完備している。日々の掃除は利用者様と職員で行っている。 24年度より、月の掲示板を作り、楽しみをお客様と共有している。	フロアでは体操やカラオケ、制作の時間がある。作品は出展している。エアコンにはファンを設置し対流を促している。室内カメラにより、転倒原因の究明に役立っている。廊下には、マッサージチェアやソファがある。窓からは富士山が見られる場所がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各フロアにソファを置いて、誰でも使用できるようにしている。 廊下の突き当りに椅子を置いて、お一人で過ごせる空間の場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、ご本人の馴染の物をお持ちいただき、落ち着ける環境を作っている。 ご入居前に、一人の居室に居て、馴染みの物がいくつかあると落ち着かれる事もお伝えして馴染の物をお持ち頂いている。	介護ベッド、テレビ、三段収納ケース、ナースコール等が備付である。使い慣れたイスや時計などを持ち込む人もいる。家族写真や自分の作品を飾ったりしている。居室で好きなテレビ番組を楽しんでいる人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は全てバリアフリーとなっております。ずり足傾向のお客様の転倒リスクを軽減し安全に歩行も出来ます。		